

- さつまいもの主力産地である印旛・香取地域では産地分析の結果、高齢化のため平成29年には生産者数が67%まで減少し、遊休農地が486ha発生することが予測された。また市場調査では計画的・安定的な出荷を求められた。
- このため担い手農家の規模拡大支援、貯蔵施設の導入による安定出荷、県内JAの産地間連携強化を支援した。
- その結果、機械化等により担い手の規模拡大が進み、新たな貯蔵出荷ルールや品種別販売方針が定着するなど産地強化が図られた。

目標とする成果

1 担い手農家の規模拡大

■担い手農家1戸当たりの面積拡大
(①5年後に1.5倍、②10年後に5年後の1.25倍に拡大)、により作付面積1,325ha維持を図る。

2 経営モデルに基づく機械の導入

■省力化のための大型収穫機械導入
■安定出荷のための定温貯蔵施設導入
これらにより、作付面積の拡大を図る。
産地平均作付面積(農家1人当たり)
印旛地域 2.1ha(H24)→2.7ha(H29)
香取地域 1.65ha(H24)→1.9ha(H29)



3 産地間連携

県域課題として活動することで、産地間の情報共有と濃密な連携を図る。

- ★定温貯蔵庫・大型収穫機等の導入
- ★主要4JA間の計画的出荷への誘導

今回の普及活動の特徴

- 産地の将来を生産者個々の技術レベルと流通面から診断し、構想を作成
- 戦略的産地育成普及活動事業プロジェクトチームでの計画的な普及活動
- 産地構想は農業革新支援専門員が産地分析マニュアルを作成し、指導

目標を達成するための普及活動

H22～H24

■戦略的産地育成推進協議会の活動
・市場、JAグループ、市、農林総合研究センター、農業事務所、農業革新支援専門員による協議会を設け、活動体制を構築
・実務担当者による販売促進・技術向上ワーキンググループを設置
★高需要の粘質系「べにはるか」普及
★長期出荷のための貯蔵施設導入拡大

H25～H29

■販売促進・技術向上の強化
★需要の高い粘質系品種の普及
べにはるか H21導入→294ha(H29)
シルクスイート H26導入→113ha(H29)
★「30日以上貯蔵ルール」の定着(H25)
★「品種別販売方針」の定着(H28)
★規模拡大農家育成(平均・最大面積)
印旛 ・2.1ha(H24)→2.5ha・8ha(H29)
香取 ・1.65ha(H24)→1.7ha・7.5ha(H29)
★貯蔵施設導入拡大
定温貯蔵庫整備 3戸(H24)→52戸(H29)
JA大型貯蔵庫整備 2JA

関係機関との連携

- 農業革新支援専門員のコーディネートにより、新技術を課題化、現地で農林総合研究センターと連携した試験を展開
- JA等を交えて定期的な検討会を実施
- 印旛・香取地域合同研修会等により、生産者へ新技術等の情報を速やかに普及